
1944年東南海地震

(石橋克彦：南海トラフ巨大地震—歴史・科学・社会、岩波書店、2014、8-18)

2014年8月1日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

・ 1943年 9月10日 鳥取地震

M7.2の地震が発生し、死者は1083人であった。

・ 1944年 12月7日 東南海地震

熊野灘でM7.9の巨大地震が発生した。三重県・愛知県・静岡県西部と周辺地域が震度5以上の激しい揺れに見舞われた。津波が伊豆半島から紀伊半島までを襲い、波の高さは伊豆の下田で2.5m、熊野灘沿岸で6~8mに達した。被害は、死者・行方不明者1183人、住家と非住家の全壊がともに1万7000棟以上、流出家屋約3200棟などという。道路・鉄道・橋・堤防・港・船・農地などの被害も甚大だった。

・ 1945年1月13日 三河地震

M6.8の地震が発生し、前年の震災地のなかの狭い範囲(三河湾北岸)で約2300人の死者を生じた。

・ 1946年12月21日 昭和南海地震

M8.0の巨大地震が西日本を襲った。揺れは東北地方南部から九州全域まで感じられ、紀伊半島、四国南半、瀬戸内海沿岸、大分県、東海地方などが震度5以上となった。ふたたび大津波が発生し、房総半島から九州南部にかけて3~6mの津波に襲われた。1330人の死者を生じた。

・ 考察

こうしてまとめてみると、死者が1000人を超えるような大地震が4年連続で発生していることが分かる。このことから、一度大きな地震が発生したら、その後、また時間をおいて大地震が発生する可能性が非常に高いことがわかる。病院や道路などに被害を受けた地域が再び災害にあってしまうと、本来助けられるはずの患者が助けられずに亡くなってしまいうようなケースも出てくると考えられる。

また、2011年に発生した東北地方沖地震においても津波による被害が甚大であったことや、今回の文献を読ませていただいて、津波に対する対応がとても重要であると感じた。今回の文献に「第一波以降に5,6回津波が押し寄せ、最初は避難出来たのに、自宅に戻って第二波で遭難した人がいた。」とある。津波が何度も押し寄せてくるということを知っておくだけでも、助かる命があったことを知った。大地震などの災害が起きた時に、多くの命を救うためには、医療も大事だが、正しい情報を得て、正しい判断をすることだと感じた。